

あわゆず ふれず

第31号 2015年4月24日発行

伝えよう日本語を
広げよう徳島から



J T M と く し ま
日 本 語 ネットワーク

学校支援 4年間の歩み、そしてこれから

子ども達は、生まれるところ住むところを選んでこの世に生まれてきたわけではありません。まして、外国にルーツを持つ子ども達は、自分の意志で日本にやってきたわけではなく、不安な気持ちを抱いていることは想像に難くありません。私たちJTMは、そんな子ども達に寄り添い、子ども達が日本語を学習したり、友達と遊んだりできる場所として、2009年の春休みに「にほんご寺子屋」を開設しました。しかし、学校では友達と上手にコミュニケーションがとれているのだろうか、授業は理解できているのだろうか、学校での生活が気になっていました。

そんな状況が大きく動いたのが2011年でした。1月22日に、「外国にルーツを持つ子どもたちの未来への責任」というテーマでセミナーを開いたのですが、学校の先生方にも参加していただきたいと考え、徳島県や徳島市の教育委員会の後援をいただこうと奔走する中で、先生方も同じように悩み、考えていることを知り、地域と学校と一緒に子ども達の未来を考えていけることが分かりました。

その頃から、学校に支援に来てもらえないだろうかといった問い合わせがJTMに来るようになり、どういったシステムがあれば、学校支援が可能になるだろうかと模索する日々が続きました。そして、その答えは県教育委員会から来ました。徳島県地域子育て創生事業として「帰国・外国人児童生徒支援事業」の補助金がいただけるというのです。つまり、学校からの要請を教育委員会が受け、その要請で、私たちが学校支援に赴くというラインができたということです。このお話を受けて私たちはどうすればよりよい支援ができるかを話し合い、二つのことを確認しました。

一つ目は、最初に支援者が学校訪問をし、教職員、保護者、そして子どもと会って、話をした上で、どのような支援ができるか、また何が必要かを考えるようにすること。二つ目は、毎回の支援のとき、学習連絡表を書いて学校に渡し、授業内容や子どもの様子を知ってもらい、学校からもその表に書いていただいて、支援内容を共有することです。

その後、県教育委員会の体制作りのおかげで少しずつ支援の充実が進んできました。

この支援で、子ども達が成長していることが感じられます。そんな例を二つ紹介します。

Aさんは、いつも支援のはじめに「先生、じゃんけんしよう」と言ってきます。「ひとつ、ふたつ、……とお」がなかなか覚えられないので、じゃんけんで勝ったら、おはじきをひとつ、ふたつと数えながら取るゲームを取り入れたところ、とても気に入って、毎回「じゃんけん」をするようになったのです。そんなゲームを取り入れた学習をいくつか続けていると、助数詞もいろいろ覚え、形容詞などの語彙数も増えていきました。先生も学習連絡表に、「日々の言語活動がとても豊かになりました。」と書いてくださり、支援してきて良かったと思ったことでした。Bさんは、4月当初は、担任とは挨拶程度の会話しかできず、学年相当より数学年も下まわる漢字も身につけていませんでしたが、先生や友達とコミュニケーションを取りたい、話したいとの思いがあって、その場に応じた言い方の練習や、語彙の習得に積極的に取り組み、急速に進歩をしてきました。

1月頃には、自分から話しかけてくれるようになったと先生から伺いました。これもうれしい変化でした。

Aさん、Bさんのような子ども達がこれからもどんどん増えてくれることを願っています。そのためには、支援者や学校の先生など、まわりの大人たちの連携は不可欠です。この支援をよりよいものにし、これからも続けるために、いっそう学校や教育委員会の先生方と連絡を密にしていかなければならないと思います。

(長町 順子) (挿絵 中野佳代子)



第1回

JTMとくしま日本語ネットワーク定例会 非漢字圏の学習者のための漢字指導 『パーツでおぼえる初級の漢字』

日時 平成26年10月11日(土) 13:00~16:00
場所 (公財)徳島県国際交流協会 大会議室
講師 清末 逸子 先生

第1回定例会では杏林大学の清末逸子先生に、先生の著書『パーツでおぼえるしょきゅうの漢字』を使って「非漢字圏の学習者のための漢字指導」というテーマで、初めて漢字を学ぶ学習者、また漢字がなかなか覚えられない学習者に有効な学習方法を教えていただきました。



学習者のつまずきの原因は

漢字学習における学習者のつまずきの原因として、「1つの漢字に複数の読み方がある」、「1つの漢字に音読み・訓読みがあるのでどちらを使うのかわからず、誤用してしまう」といったことがあります。

また、「好」という字が「好き」の中の1文字なのか、「女子」という2文字なのかのわかりにくいということや、学習者にとってルビは必要なものですが、ルビに頼り過ぎる状況を生みやすいということも、つまずきの原因となります。

具体的な学習法として

具体的な学習方法としては、まず漢字学習の前に、パーツとなるひらがなやカタカナ、アルファベット、画数の少ない基本となる漢字(一~十、日~土、目・口、田など)を学習しておきます。

難しい漢字も、1字をこれらのパーツに分けて導入すると、とても簡単な字に思えます。

さらに、パーツで導入して理解すると同時に、以下のよな学習を取り入れると、より効果的な漢字学習ができます。

- 「書き順」や「書き順の規則」を少しずつ覚えていく
漢字は「左」から「右」、「上」から「下」へ書く
(逆方向には書かない)
- 読み仮名はまず「基本の読み」から覚えて、徐々に他の読みを取り入れていく
例：一・ニ・三 → 一つ・二つ・三つ → 一日・二日・三日 → 日なた
- 日常生活でよく使う漢字で学ぶ
例：「田」は人の名前によく使う：「山田さん・田中さん」
- 身近な文の中で読んだり書いたりできるようになるまで練習する

定着させるために

講義の後半に、グループディスカッションで漢字を楽しく学習するための教材を考え、最後にその教材を使ってグループごとに「部首カードを組み合わせて漢字、文を作る」、「パーツを組み合わせて4×4マスの表を完成する」、「漢字をパーツにばらして、もとの漢字を当てる」など、楽しく創意工夫されたアクティビティを紹介しました。

漢字学習で導入された漢字を定着させるため、こういったアクティビティも大切な学習要素になるということがわかりました。

このセミナーでは非漢字圏の学習者が漢字を学習する際につまずきとなる原因や、学習者が日常生活でよく使う漢字が無理なく読み書きでき、また使いこなせるようにするために漢字学習をどのように進めていけばいいの、といったことなどを具体的にとてもわかりやすく説明していただきました。

先生のご講義の後、さっそく「漢字学習講座」で教える機会があり、実際にこの方法で学習を進めてみたところ、学習者から「よくわかる」、「とても覚えやすい」、「わかるから勉強が楽しい」といった声が聞かれました。画期的な漢字学習の導入法だと思いました。また、この学習法がいかに効果的かということを実感しました。今後の漢字学習にも活かしていきたいと思います。(谷口 真弓)



講師プロフィール



きよすえ 清末 逸子 先生

杏林大学外国語学部非常勤講師
外語ビジネス専門学校日本語科非常勤講師

日本語講師として、留学生、企業研修生、ビジネスパーソンなど、さまざまな学習者への日本語教育に携わる。2004年から、AOTS海外技術者研修協会横浜研修センターにて、アジアなど非漢字圏からの研修生の日本語教育(漢字指導も含む)を担当。限られた研修期間で漢字学習に四苦八苦する研修生たちに接し、学習者のニーズに合った、わかりやすい指導法の開発の必要性を痛感し、漢字教材の開発に取り組んだ。その後、初級漢字学習メソッド開発研究会を立ち上げ、教材作成を行い、以下を出版。
2010年10月『パーツでおぼえる しょきゅうの漢字 Vol. 1』
2011年12月『パーツでおぼえる しょきゅうの漢字 Vol. 2』

★本セミナーはとくしま県民活動プラザアドバイザー派遣事業の助成を受けて開催されました。

徳島県定住外国人の就労・社会参加事業

主催 公益社団法人 徳島県労働者福祉協議会

場所 わーくびあ徳島 2階

「漢字学習講座」

日時：11月6日～1月22日 毎週月曜日と木曜日 13:30～15:00

受講生：ブラジル 1名
インドネシア 3名
中国 6名
フィリピン 16名



「介護職員初任者研修講座」の外国人受講生をサポートするために始まったこの講座では、「読み合わせ」「初級漢字」「報告書」の3つのグループに分かれて学習しました。

「初級漢字」グループでは、まずカタカナの復習から始め、漢字に含まれているカタカナをパーツとして捉える練習をしました。例えば、「夜」という漢字にはカタカナの「イ」、「左」には「エ」などを学習者自ら発見し、それを記憶に結び付けました。書く作業は単純ですが、学習者はみんな「おもしろい!」と言いながら、熱心に取り組み、読める漢字や書ける漢字がどんどん増えていきました。

「報告書」グループでは、介護現場での職員と利用者の会話を報告書としてまとめるという練習をしました。日頃、書くという機会がほとんどない受講生にとって「報告書」を書くということは、とてもハードルの高いものでした。しかし、利用者が言った「肘が少し痛いです。」という言葉で「肘が少し痛いと言っていた。」などの簡単な表現から始めていくと少しずつ書けるようになっていきました。

「読み合わせ」グループでは「介護職員初任者研修講座」で使用しているテキストに出てくる介護の専門用語や漢字を取り上げ、「倫理的判断」「自立支援」「看取り」など読み方も意味も難しい言葉を文字カードやイラストなどを使って、何度も読んだり、意味を確認したりしながら、覚えました。抽象的な言葉も多く、受講生たちにとっては難題でした。また、私たち講師にとっても初めての取組でしたが、何種類もの練習シートを準備し、それを1枚1枚仕上げることによって、授業の最後には読めて、意味がわかるようになっていました。そして、受講生全員が介護職員初任者の資格を取得することができ、それまでの努力が報われ、私たち講師も安堵しました。

(加村 匡子)

「保護者のための日本語講座」

日時：9月3日～3月11日 毎週水曜日 13:30～15:00

受講生：フィリピン 5名
中国 3名
インドネシア 1名



この講座は、現在学校に通っている子どもや、これから学齢期になる子どもを持つ保護者が、学校や地域の中で円滑にコミュニケーションできるようになることを目指して開催されました。

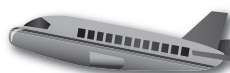
テキストは『子どもと暮らすためのこんにちはとくしま』（JTMとくしま日本語ネットワーク発行）を使い、学校での生活について保護者として知っておきたい事柄や対応の仕方、また学校からのお便りの内容がわかるようになることを目的として、全24回の学習を行いました。

受講生は、学校の先生や地域の人たちと丁寧な言葉で会話をすることがとても苦手だと感じています。そこで、会話練習では日本人がよく使う表現を覚え、口頭練習を重ね、保護者として適切で丁寧な会話ができるようにしていきました。

テキストには、欠席を連絡する、個人懇談で相談するなど、すぐに役立つテーマが取り上げられているので、その場に応じた会話練習に取り組むことができました。また、学校行事のお便りを学習することで学校生活を知ることができ、返事の書き方や行事でのマナーなども理解することができました。

受講生たちは、テキストの学習だけでなく、同じような思いや不安を抱える保護者として、お互いが実際に経験したことや悩みを語りあうこともあり、より一層学びが深まったのではないかと思います。

(杜 美智)



お国探訪



メキシコ

優真・コロラド君(小3)
優士・コロラド君(小5)
(「にほんご寺子屋」に参加)
母親のやよいさん



Q 住んでいた所はどんなところですか。

メキシコの首都から飛行機で2時間くらいかかるロスカボスという所。半島の先端にあり、高級ホテルやお金持ちの別荘が並ぶ海辺の小さな町で、海と町の背後は砂漠といったところです。四季はあり、夏は38度くらいありますが、海からの風もあり、日本ほど蒸し暑くなく、冬は17度くらいです。水は海水を真水に換えているので、高価で貴重です。

Q 通っていた学校はどんな学校ですか。

幼、小、中、高一貫のプライベートスクールで、悪いことをしたら即やめさせられます。生徒は、メキシコ、アメリカ、カナダ、アルゼンチン、ベネズエラから来ていて、メキシコが半数くらいでした。学校は、8月20日に始まり、6月の下旬に終わります。休みは、春は2週間くらい、夏は2か月弱、冬は、クリスマスからお正月にかけて2週間くらいありました。台風の時しか雨が降らないので、雨が降ったら学校は休みです。授業は曜日によって違いますが、午前は英語で午後はスペイン語で授業を受けていました。給食はなくお弁当です。お弁当を持っていない子は売店で買います。売店では、メキシカンのご飯、ピザ、ケーキ、ジュース、キャンディーも売っていました。

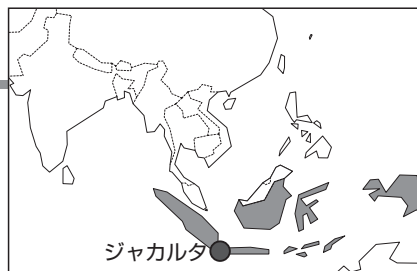
Q 日本と違うところはどんな点ですか。

メキシコは治安がよくなく、子ども達だけで行動できないので、登下校は車で送迎し、子ども達が遊ぶのもごく限られた所でしか遊ばせませんでした。ですから日本に来て、「学校へ自分で歩いて行けるのがうれしかった。」と子ども達が言っていました。給食当番や掃除当番があるのは、協調性や責任感を養うということで、子どものためにはいいと思います。(山満十糸子 記)



インドネシア

サンティニさん
(「保護者のための日本語教室」に参加)



Q 住んでいた所はどんなところですか。

インドネシアのジャカルタ近郊都市のピンタロというところで暮らしていました。気候は雨季と乾季があり、気温は一年中30度前後ありますが、夏は日本ほど暑くありません。

Q ジャカルタで通っていた学校と日本の学校では違うところはどんなところですか。

私の息子は日本の小学2年生ですが、まず、日本の学校は宿題が多いことです。ジャカルタでは宿題は週末の土曜日だけしかないので、日本では毎日あり、夏休みの課題が多いのに、わが子が1年生になった時にびっくりしました。つぎに、ジャカルタで私が通っていた学校は、毎日8時から12時までで、給食などはなく、勉強が終わるとすぐ帰宅していました。そして、日本の勉強は内容が難しいことです。息子が学校で勉強している内容は、インドネシアでは6年生ぐらいが習う内容なので、すごいなあといつも息子を応援しています。また、日本のように理科や音楽などはありませんでした。

Q 日本と違うところはどんなところですか。

インドネシアの子ども達は大人を尊敬し、日頃の態度や言葉にもその気持ちが表れています。しかし、息子の友達が家に来ることがあるのですが、日本の子ども達にはそれがあまり見られません。少し残念に思うことです。私はカレーが好きなのですが、カレーはニンニク、唐辛子、ココナッツミルクをたっぷりを入れて作るので、香りがよく日本のカレーとは少し違いますし、とてもおいしいです。(玉置 房 記)

第2回 JTM とくしま日本語ネットワーク定例会

第6回 お国自慢と
ポットラックパーティー

3月29日（日）午後から、ヒューマンワーくびあ徳島にて「お国自慢とポットラックパーティー」が行われました。春雨の降る中、大勢参加してくださいました。

子ども達も含めて87名、年齢層も幅広く、8か国の外国の人達や会員がそれぞれにいろいろな料理を持ち寄り集まりました。

参加者全員の自己紹介から始まり、お国の歌や楽器演奏、合唱、ゲームなど心ゆくまで楽しみました。このたび新設の「昔の遊びコーナー」では子ども達がけん玉や紙風船を気に入っていた様子。また、振袖の着付けやお茶席も好評でした。最後に全員が阿波踊りの輪の中へ。

外はすっかり晴れ上がり、どの人もニコニコ顔で終えることができました。参加者の皆さまのご協力どうもありがとうございました。（佐藤 光枝）



会場で感想を聞きました

- 📌 **【ベトナム 女性】** きょうはとても楽しいです。各国の文化や料理を知ることができました。料理はお寿司やお好み焼きがおいしかったです。私が持ってきた料理は、ベトナムでよく作る通りの焼肉とピーナッツを使ったお菓子です。
- 📌 **【ウイグル 男性】** 日本に来て6年になります。今は中古車の貿易の仕事をしています。徳島はとても好きで、第二のふるさとだと思っています。きょうは私の伴奏で娘が歌を歌いました。娘は歌が大好きで、きょうは美空ひばりの歌を歌いました。私が演奏した楽器はウイグルの伝統楽器で、日本の三味線のようなものです。
- 📌 **【ベトナム 男性と女性】** ベトナム語で「ザックモーツォ」という歌を二人で歌いました。二人での練習は一度もしていなかったのでちょっとどきどきしましたが楽しかったです。友だち5人がバックダンサーで踊ってくれてうれしかったです。日本の歌も好きで、カラオケでよく歌います。今日の料理の中ではお寿司がおいしかったです。
- 📌 **【中国 女性】** 中国の歌を中国語で歌いました。歌詞の意味は「悲しみと愛」です。この歌がとても好きです。本当はとても長い曲ですが今日は短くして歌いました。とても緊張しました。

（村松幸子、加村匡子 記）



2014年度 写真で綴る

日本語サロン



日本語指導ステップアップ講習会



日本語指導勉強会



日本語指導部研修会



にほんご寺子屋



にほんご寺子屋(市立図書館見学)



春休み にほんご寺子屋「職場体験学習」



徳島県委託 夏休み子ども日本語教室



JTMの活動 この一年

公益社団法人 徳島県労働者福祉協議会主催

就職のための日本語講座



保護者のための日本語講座



介護の日本語講座



漢字学習講座



徳島県アパレル縫製工業組合 外国人技能実習生日本語指導



他にもこんな活動をしています

- 「徳島県国際交流協会日本語教室」担当 毎週日曜日
- ALTのための日本語講座
- 学校からの要請による日本語支援
- 徳島文理大学留学生のための日本語指導
- プライベートレッスン
- 機関誌「あわゆずぶれす」年2回発行
- 会報「スマイル通信」毎月1回発行

INFORMATION

◆会員数(2015年3月31日現在) 正会員数49名
 ◆入会随時受付中! 正会員...会の活動に参加し、ともに運営を行います。
 協会員・団体...会の活動を支援する個人または団体

活動紹介

ブラッシュアップのために

- ◇日本語指導勉強会
*毎月第2土曜日13:30~15:00
〈模擬授業と意見交換〉日本語に関心のある方ならどなたでも参加できます。
- ◇日本語指導部研修会
*毎月第3金曜日または土曜日
- ◇定例会 ◇特別研修会



日本語学習をサポートする交流活動

- ◇日本語サロン
*毎週月曜日10:30~12:00
とくしま国際戦略センター(トピア)



にほんご寺子屋

- *毎週日曜日13:30~15:00
とくしま国際戦略センター(トピア)

就職のための日本語講座

2014年5月20日(火)~7月16日(水)

介護の日本語講座

2014年9月2日(火)~10月31日(金)

保護者のための日本語講座

2014年9月3日(水)~2015年3月11日(水)

*毎週水曜日13:30~15:00

漢字学習講座

2014年11月6日(木)~2015年1月22日(木)

*毎週月曜日、木曜日13:30~15:00

わーくびあ徳島

主催 公益社団法人徳島県労働者福祉協議会

徳島県アパレル縫製工業組合日本語集合研修

2014年8月7日(木)~9月4日(木)

日本語レッスン

- ◇プライベートレッスン・グループレッスン
入門から上級まで、会話や日本語試験対策などニーズにあった学習プランで教えます。
- ◇詳しくは事務局またはレッスン専用メール
jtmtokeu-lesson@mbk.nifty.com まで。

JTMとくしまのオリジナル教材紹介

Konnichiwa Tokushima

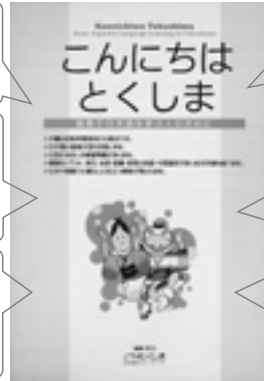
こんにちは とくしま

徳島で日本語を学ぶ人のために

本書は初級学習者向けの教材です。

文型に対応した練習問題があります。

日本や徳島の暮らしに役立つ情報が得られます。



日本語の基礎文型を学習することができます。

イラストがたくさんあり、わかりやすいです。

会話と読解、表現の英語・中国語訳があり、自習学習を助けます。

子どもと暮らすための こんにちは とくしま

徳島で子どもを育てる人のための日本語教材



- ・全12課
- ・季節や身近な場面に合わせてどの課からでも学習できます。
- ・子育てを通して、まわりの人とうまくコミュニケーションできるようになるための表現が学習できます。
- ・学校の通知文の読み方や返事の書き方の練習ができます。
- ・生活情報がクイズ形式で学習できます。
- ・学校や生活に役立つ情報が得られます。

●ご購入、お問い合わせ JTMとくしま事務局

ご支援をいただきました

□徳島新聞社会文化事業団より
助成金をいただきました。

あ と が き

春になるといろいろなことを思い出します。そのほとんどがうれしかったこと、楽しかったことです。みなさまはいかがですか。

春とともに「あわゆずぶれす第31号」をお届けできることをうれしく思っています。

(加村 匡子)

発行/JTMとくしま日本語ネットワーク

発行責任者/兼松 文子

編集責任者/山満十糸子

編集スタッフ/加村 匡子・谷口 真弓・玉置 房・辻 暁子
長町 順子・村松 幸子・杜 美智・安山 政子

印刷/徳島県教育印刷株

■JTMとくしま日本語ネットワーク

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1 わーくびあ徳島2階

公益社団法人 徳島県労働者福祉協議会内

TEL 088-625-8387 FAX 088-625-5113

E-mail jtmtokeu@nifty.com

URL http://homepage2.nifty.com/jtmtokeu/